

長崎原爆記録フィルムのデジタル化と被爆 の実相を「社会的記憶」にするための研究

電気電子工学科

大矢正人

研究の目的 1

- 長崎原爆資料館が保管している米国戦略爆撃調査団が1945年11月から2月に撮影した長崎に関する16mmフィルムを情報技術によってデジタル化し、映像資料として幅広く活用できる形で記録し保存する。
- 撮影された構造物、撮影場所などについての現地調査、被爆者の聞き取り調査を行い、調査研究を活かした記録映像と映像解説書を作成する。

研究の目的 2

- 日本映画社(当時)の記録映画『広島・長崎における原子爆弾の影響』の制作に参加した相原秀二氏が残された長崎での資料を参考にして、米軍側と日本側の映像比較を行い、原爆被害の中で撮影された物、撮影されなかった物を明らかにし、米軍戦略爆撃調査団の記録映像の持つ今日的意味を明らかにする。
- 記録映像の空白期間である被爆直後から10月までの撮影対象の状況を被爆者の証言や絵、写真に基づいて明らかにする。

時事通信社の記事



時事通信社

投資信託ダブルキャンペーン
投資信託新規買付、他社からの移管は今がチャンス!

期間中の新規買付で
・専任取扱い全ファンド対象
・1年給付金特優 (割付取扱い)
・他社からの移管で
・年間信託報酬 (割付取扱い)

ホーム | 国際 | 政治 | 社会 | スポーツ | 経済・マネー | 予定 | 地域 | エンタメ | ランキング | フォト

[PR] 新型インフルエンザ「愛診・療養編」～あなたの？に答えます～政府ネットTV

ホーム > 社会 > 指定記事
アクセスランキング一覧へ 本文の文字サイズを調える

被爆の実像、鮮明に＝米フィルム、ハイビジョン化－終戦後の長崎撮影

終戦後の1945年11月上旬から翌年2月ごろにか、長崎を訪れた米軍戦略爆撃調査団が原爆の被災状況を撮影した約4時間のカラーフィルムが5日までに、ハイビジョン映像として生まれ変わった。もともとは長崎原爆資料館が保管する16ミリフィルム。原爆の影響や実像を知る上で貴重な資料となりそうだ。

長崎総合科学大学(長崎市)の大矢正人教授らの研究グループが、ハイビジョン映像としてデジタル化した。

大矢教授や同資料館によると、フィルムはワシントンの米国立公文書館に映像原本があり、被爆から間もない長崎をカラーで撮影した唯一のものでされる。同資料館が74年、米国で複製し入手。これまでフィルムの映像はVHSテープに収められていたが、フィルムの劣化や、テープ画像の不鮮明さを指摘する声があった。これを受け、大矢教授らが10月上旬、東京の映像関係会社にフィルムのハイビジョン化を依頼。作業が11月末に終了した。(2009/12/06-02:31)



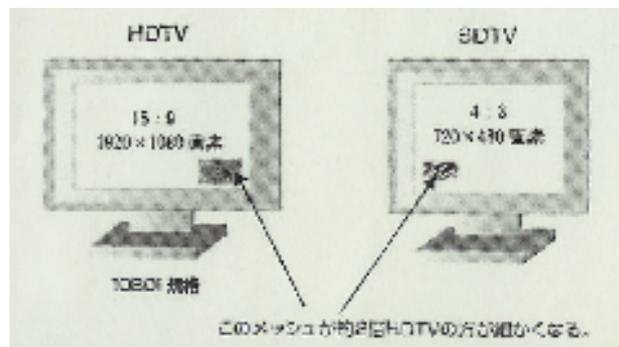
長崎総合科学大の大矢正人教授らの研究グループが、米軍戦略爆撃調査団が撮影したカラーフィルム(複製)をハイビジョン映像化した。焼亡地から約500メートルにあった海上天主堂とみられる建物が壊る。(大矢教授提供)(時事)

朝日新聞社 の記事



SDTVとHDTVの違い

- ・ HDTVとはNHKが開発した高精細テレビジョン (High Definition Television) の名称で1974年にen :CCIR (国際電気通信連合の前組織) でNHKから提唱され、通称ハイビジョンと呼ばれている。それに対して、従来のテレビ放送はSDTV (Standard Definition Television) と呼ばれている。



東京光音の作業工程



東京光音の作業工程

